

まきどき・植えどき・収穫どき

どきどき情報 1月



明けましておめでとうございます
今年も宜しくお願いします



新年明けましておめでとうございます。

2007年あさつゆオリジナルカレンダーには「あさつゆは今日も元気です」とあります。確かに、あさつゆは今年も、今日も元気です。「それは私たちが、農業という、汲めども尽きぬ魅力あふれる自然の世界を相手にしているからかも知れない・・・」そんな風に考えてみました。

改めまして、今年も一日一日を大事に、地道に、コツコツと仕事に励み、お客さんの喜ぶ顔を思い描いて、店づくりや農作業を進めてまいります。

昨年のご協力で心より感謝申し上げます、今年はさらに高い山々をめざして共に歩みはじめたいと思います。今年も皆様にとりまして、充実した年でありますことを心よりご祈念致します。

平成19年 元旦 　　あさつゆ運営組合長 伊藤良夫

生産者情報コーナー

組合員の皆さんの実践例を載せ、参考にさせていただくコーナーです。充実した内容とするためには皆さんからの情報提供が必要ですので、どしどしお寄せください。また、疑問・質問も沢山出してください!!! 今回は、長瀬地区の出浦昇さんのEM栽培の取り組みを紹介します。

出浦さんは、7年前から EM 栽培に関心を持ち実践してきました。出浦さんは「自根トマトを同じほ場で6年連作しても1本も立ち枯れなどを出していない」という驚きの成果を出しています。

◎EM栽培に関心を持った理由：7年ほど前、都会にいた親戚が EM のことを教えてくれ、パンフレットなどを読んでみて、関心が出てきて取り組み始めた。

◎トマト栽培の実際：雨よけ簡易トンネル 夏秋栽培 圃場 長瀬 町組

1. 土作り：収穫終了後の秋からはじめ、近くの神社から出る落ち葉や切り藁をたっぷり畝に敷き詰め、上から EM 1 型ボカシ（注1）をまき、よく攪拌するように耕しておく。1a で 20kg 位の EM ボカシを使用。（有機物が土壌中ないと EM 菌は増殖しない。）

2. 播種は2月下旬。ピート板にまく。品種は桃太郎8、桃太郎 T93

3. 定植は4月28日。 4. トマトトーンを最初はやっている。

5. 元肥：化成肥料は使わないが、粒状苦土石灰を若干まいている。

6. 収穫はじめ：6月25日 7. 追肥：樹の様子をみながら1週間から10日の間隔で、EM ボカシ II 型抽出液（注2）を株元に散布している。（トマト 350 本に対して 500% の抽出液を散布）効果はすぐ出て、果実がてきめん大きくなるのが分かる。

8. 収穫終了：10月末（主枝1本仕立てで14段くらいまで収穫）

9. 病害虫対策：殺菌剤は予防を中心にドイツボルドーや Z ボルドーを散布している。殺菌剤はアフームなどを使用。自根苗（接木でない）だが、立ち枯れは1本も出なかった。葉カビ病もない。

出浦さんからのアドバイス：「土が出来ていない状態でいきなり化成肥料を使わないというのは難しい。毎年徐々に土作りを進める必要があると思う。それと手間隙もかかる仕事である」

※EM とは有効な微生物を集めたもので、有用微生物群の略です。


※注1 EM ボカシの作り方は①米ヌカ②油カス③魚カス④糖蜜⑤EM-1 です。作り方は市販のパンフレットを参考にしてください。EM はファーストビルの一階で販売しています。

※2：EM ボカシ II 型抽出液 EM ボカシを1晩水に漬けて作ります。水100%に対して EM ボカシ 1kg が目安。速効性の液肥として利用できる。

野菜の作業

昨年までの生産・販売データを基に生産計画をしっかりとてましょう！！

1月中旬以降野菜の育苗が本格化します。温床線の設置や育苗用園芸マットを利用し、均一でしっかりした苗を育てましょう。(温床線の設置については、2004年11月号を参考にしてください。)

| 種まき | 栽培管理のポイント |
|--|--|
| 春どりレタスの播種 標高 500mで4月下旬～5月上旬頃に収穫する作型では今月が播種期です。 | 20度程度の温度に設定し一斉に発芽させるようにします。光によって発芽が促進されるので、厚くなりすぎないように均一に覆土をしてください。 |
| トマト(半促成作型)の播種 定植の約70日前を目安に種まき。3月下旬に定植する場合は、今月中～下旬が播種期です。 | 床土温度が28～30度の一定になったときに6～8cm間隔スジ蒔き覆土は1cm以上にならないように均一にします。新聞紙などで覆いビニール、保温資材をかけて、25～30度を保つようにし、均一に発芽させます。発芽後は日中25度前後、夜間は15度～18度を保てるように保温します。本葉が出始める頃に株間が1cm位になるよう間引きます。 |
| キュウリ(半促成作型)のは種定植の40～45日前を目安に種まきします。 | 穂木は植え付け予定数量より2割程度、台木は3割程度多めに用意し、条間8～10cm、1.5～2cm間隔に、種子の長径方向に子葉があるので条と長径が直角になるように播種します。 ブルームレス台木等で呼び接ぎをする場合は、播種を1～2日遅らせ、間隔も広めの3～4cmとします。さし接ぎを行う場合は、穂木が台木より細い必要があるため、穂木の播種は台木より1～2日おくらせます。床温は、やや高め28度～30度を目標に管理し、発芽がそろったら徐々に下げます。 |
| <p>○コマツナの栽培</p> <p>① 発芽適温：12～30℃</p> <p>② 施肥量(分量)：N 1.5kg、P 1.5kg、K 1.2kg / 1a</p> <p>③ 120cm程度のうねに、12～15cmの条播をします。</p> <p>④ 播種後はたっぷりとかん水し、不織布などをべた掛けします。</p> <p>⑤ 本葉2～3枚時に、株間2～3cmに間引きします。</p> <p>⑥ 生育前半は乾燥に注意して時折かん水しますが、後半はかん水を控えて硬めに育てます。</p> <p>⑦ 収穫は、播種後50～60日、草丈20～25cmを目安にします。</p> <p>○コマツナ・ホウレンソウの寒締め栽培</p> <p>コマツナ・ホウレンソウなど低温に強い野菜はマイナスの気温にも耐え、むしろそのことによって糖分やビタミン含量が増し美味しくなります。既にハウス内で収穫出来る大きさになっているものがあれば、4度以下の低温に遭わせる寒締め栽培を行ってみてください。ハウスを昼夜解放しておくだけです。10～14日位で効果がありますが、それより長くおいても成長は止まっていますからいつ収穫しても差し支えありません。なお、コマツナは、ホウレンソウのように一気に冷たい外気にさらすことはやめて、べたがけをしたまままずハウスを開放して冷たい外気を導入し、一週間程度低温に慣らしたのち、べたがけを除くようにしてください。</p> |  |

生産物のコスト計算の実施を！！

本年からに農業所得の申告する際には、全ての農業者が農業所得自ら収支計算をし所得金額を算出した収支内訳書を作成し申告することになります。出荷伝票や資材購入明細をまとめる際には、ちょっと面

倒かもしれませんが、大まかでよいので、品目毎の生産コストを出してみましよう。また、品目毎の生産量(出荷量)もまとめてみて1本あたりの生産コストがどうなっているのか検討し、本年の作型や品種、技術上改善すべき点などについて検討してみてください。

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター
櫻井主任企画員 (Tel.25-7157)